

「アレスシックイ」が諸橋近代美術館展示室に採用されました

弊社漆喰塗料「アレスシックイ」が、公益財団法人諸橋近代美術館(福島県北塩原村)の展示室に採用されましたのでお知らせいたします。

同美術館はスペインが生んだ20世紀を代表する画家、サルバドール・ダリの作品を数多く所蔵していることで知られています。

同美術館では絵画等各種美術品の長期保存のため、展示室内は化学物質(とりわけ「酸」)の影響を極力抑えており、今回の展示室内改修に当たっては、その使用塗料にも配慮がなされ、「アルカリ性」でかつ「有機溶剤ゼロ=揮発成分完全ゼロ」塗料である「アレスシックイ工法」が採用となりました。



塗装仕様 : アレスシックイ工法(ローラー塗装)
仕様選定者 : 諸橋近代美術館学芸委員会の皆様

施工者 : 有限会社 大和防水様
施工面積 : 約700㎡
施工時期 : 平成26年3月末～4月上旬(完工済)

(*)

諸橋近代美術館では、4月20日から6月29日迄 その充実したコレクションを中心にサルバドール・ダリ展を開催しており、それにさきがけて、4月18日(金)には多くの関係者やメディアを集めて、盛大にオープニングセレモニーが行われました。

(*)「ダリ生誕110年・開館15周年記念展 LOVE STORY ～ ダリ 5つの愛の物語 ～ 」

同美術館の館長である諸橋英二様から、当日、下記のコメントを頂いています。

- ・漆喰塗料「アレスシックイ」の仕上りには非常に満足している
- ・消臭機能が既に発揮されていることを実感している
- ・今後、作品保護のためアレスシックイが有する「防カビ機能」や「調湿機能」に期待している
- ・魅力あるダリの作品を見ていただくのが一番ですが、その次には漆喰塗料の壁も見えていってください

■「アレスシックイ」について詳しくは専用サイトをご覧ください。 (<http://www.kansai.co.jp/shikkui/index.html>)

■新聞社様にも記事として取り上げて頂きました。(次頁参照)

本件に関する問い合わせ先: 関西ペイント販売株式会社
建築塗料本部 営業部 鳥居 竜也
[TEL:03-5711-8904](tel:03-5711-8904) [FAX:03-5711-8934](tel:03-5711-8934)

* 2014年4月25日 化学工業日報に掲載されました

* 2014年5月1日 建設通信新聞に掲載されました



美術館展示室に 漆喰塗料を採用

関西ペイント

関西ペイントが製造販売する漆喰塗料「アレシックイ」が、福島県北塩原村にある諸

橋近代美術館の展示室に採用された。写真。

アレシックイは、古くから日本の伝統的建築物の内装に使われる「漆喰」を塗料に応用することで、消臭性、抗菌性、吸湿性、不燃性などの優れた機能を持たせ、かつ左官工事を必要としないため施工性に優れるのが特長。

シュールレアリスムの代表的な画家、サルバドール・ダリのコレクションで知られる同美術館では、美術品の長期保存のため化学物質（特に酸への配慮）抑制が強く求めら

れる中、当初はトイレの臭気対策として天井の一部のみ塗

装したが、その消臭効果に驚き、展示室への採用が決まったという。今後、美術品入れ替え時の梱包材から発する臭いの抑制や、抗菌性を生かした虫やカビ対策など、漆喰が持つ効果も期待している。

現在、同美術館では6月29日まで「サルバドール・ダリ展」が開催されているが、「美術品の鑑賞と合わせて、漆喰塗料の仕上がりと性能効果にも着目していただければ」とPRしている。

諸橋近代美術館

展示室改修に漆喰塗料

福島県北塩原村にある諸橋近代美術館（諸橋英二館長）が開設15周年を迎え、展示室の改修を行った。リニューアル後の企画展として4月20日から「タリ生誕110年・開館15周年記念LOVE STORY（タリ5つの愛の物語）」が開催されている。今回の改修では、展示室の内壁塗装に漆喰系の塗料を採用した。美術館の塗装ではまだ珍しい試みだが、美術品の収蔵・保存環境整備に新しい潮流を生み出す手法として注目されている。

施工Ⅱ大和防水 製品納入Ⅱ関西ペイント販売



展示室



諸橋館長



関大和防水専務

伝統素材生かしゼロVOC

美術館や博物館の収蔵品の保護・保存で大敵となるのが、害虫の侵入やカビなど困類の繁殖だ。「従来は薬剤によって防衛していたが、現在は法令などの関係で薬品が使用できなくなり、建材の性能でブロックする考え方が重要になってきている」と諸橋館長は説明する。

（東北支社・嶋志田隆之）

収蔵品の管理に必要な温度・湿度調整には国際的な基準が存在するが、詳細な管理手法は各館の判断に委ねられる。高温多湿の日本では、施設の立地環境によって管理技術も大きく変化する。磐梯山北麓の高原に位置する同館は、年間を通して温度・湿度の差が激しいことから、特に高度な調整技術が求められる。



磐梯山北麓の高原にある諸橋近代美術館

今回の改修に当たって、基本条に優れ、結露抑制にも役立つ。こうした漆喰の特性を水性塗料化したアレシックスは、漆喰の風合いをそのままに、刷毛塗りやローラー、スプレー施工も可能な

た意義も大きい。展示物を引き立たせる色彩や仕上げについて十分な検討を重ね、丁寧に施工した。計画通りの引き渡しが果たせた」と胸を張る。

「アレシックス」だった。この塗料は、揮発性有機化合物（VOC）を一切含まない消石灰（水酸化カルシウム）を原料としている。

□ □

漆喰は日本の伝統的な自然素材による壁塗料だ。主成分である消石灰は、造膜助剤がなくても硬くなり、VOCを全く含まない水性塗料を生み出すことができる。消石灰の炭酸化作用は、長期にわたって二酸化炭素（CO₂）の吸収や消臭機能、抗菌といった環境・健康保護の性能も発揮する。消石灰は多孔質構造の吸湿性と放湿性

建材だ。改修工事を担当した大和防水（福島県郡山市、関久雄社長）は、08年度に施設の部分改修を施工した際、トイレの天井と壁の一部に別の漆喰材を導入しており、消臭効果が高く評価された。今回の展示室改修では、施工性と塗表面積（約700平方メートル）を考え、ローラー塗装可能なアレシックスを推薦した。同社の関人専務は「施工は従来の塗り比べて容易で速い。作業コストも半分程度の負担」とアレシックスを評価。「美術館という厳格な管理空間に採用され

「化学物質の影響を極力抑えるために日常の入館者に対してもインクの入ったペンなどの持ち込み禁止を徹底する美術館で、美術品の長期保存に適している」と学芸員に認めてもらったことは「光栄」と岩崎部長。諸橋近代美術館は、スペイン、米国と並んで世界に3カ所しか存在しないタリ専門の美術館だ。それだけに収蔵品の価値は高く、保存技術も国際的に注目されている。漆喰塗料で保存環境を整備する試みは、専門家の間でも話題になりそうだ。

完全には排除し、100%アルカリ性塗料として実用化したのがアレシックスだ。